

浜中社 関東ブロック大会実行委員会

2019年 7月号

関東ブロックだより

発行 浜中社関東ブロック大会研究チーム (担当 森中 田中良樹)

6月の研究部会報告

各分科会で、深い学びを目指した授業を検討しました。その様子をご報告します。

【6月26日 地理的分野 @老松中】

深い学びの授業を行うに当たっては「授業者の社会的事象における問題意識」が大切であるというお話を聞いて、今回はそれぞれの発表者から問題意識を口頭で述べてもらいました。次回は指導案にも盛り込んでいこうということでまとまりました。

○議題に上がった指導案

- ・東アジアにも地域共同体をつくるべきなのか
- ・10年後のタンザニアが自立するために～稲作分野における支援を考えよう～
- ・瀬谷駅周辺から考える地域の将来像
- ・九州地方～沖縄の海はなぜきれいなのか～
- ・自然災害に対する備え～関東・東北豪雨に学ぶ～

【6月26日 歴史的分野 @六角橋中】

第1回全体研究会で示された視点である、「人間の営み」に着目した発問「どうすれば」を用いた授業実践を持ち寄り検討しました。発問設定の難しさについての意見が出たほか、関ブロ研究テーマを、授業の中でどう位置付けるかで白熱した議論となりました。方法論に終始するのではなく単元設定と構造化に注力すべきであることや関ブロ研究テーマ「よりよい社会を実現する力を育む社会科学習」定義を明確にしたうえでの議論をしていく必要があることを確認しました。

【6月19日 公民的分野 @大綱中】

深い学びの授業を行うに当たっては「授業者の社会的事象における問題意識」が大切ではないかということで、「企業」についての問題意識と授業展開例などを考えました。

- ・企業の社会的責任はどこまで本気なのか？
- ・企業の利潤追求の陰にあるものは
→大企業と下請け業者の関係、非正規雇用の問題、ブラック企業・・・
- ・スターバックスの人気の秘密は何か？
- ・どうすれば、賢い消費行動ができる消費者になれるのか？
→安い商品とフェアトレードとどちらを選ぶのか？

写真教材の活用法

写真という資料を教材としてどのように使って「深い学びになる」授業を展開できるか、そのいくつかの例を挙げてみます。

写真の教材化・授業展開のコツ

①インパクトのある写真を使用して、導入に使う。

写真自体にインパクトがあるものを使うと良いが、テクニクとして、写真を生徒に提示する場合、写真の一部のみを隠して提示したりするとさらに効果があると考えられる。

例えば、ユニセフの教材などにある「子どもが銃を持っている写真」。銃を隠して、子どもの写真をはじめに見せておき、生徒に「子どもが持っているものは何か？」と質問して、予想させておき、意見が一通り出たところで、子どもが銃を持っている写真の全体像を見せることで、生徒に「あっ！！」と言わせる。

②写真をじっくり見せることで、自由に発見させる。

いわゆるフォトランゲージという手法。生徒に写真をじっくりと見せることで、意外なものなどを発見させる。注目させたいものや方向性をあらかじめ、教師側がしっかりもっていないと、生徒に引きずられて何をやっているかわからない授業になりがち。なので、教材をよく分析しておくことが必須。

下の写真の例は『地球の食卓 (TOTO 出版)』から、アメリカの一家族が一週間に食べる食材がのっている。宅配ピザや冷凍食品など高カロリーなものが主な食材となっている。

写真 1

少年の写真

(手の部分が隠されている)

写真 2

少年の写真

(手の部分に銃を持っている)

写真 3

「地球の食卓」の表紙と

著書中のアメリカの家庭（食べ物）の写真

全体研究部会を8月21日9：00～11：00大綱中にて行います。

一緒に勉強して、授業力をあげましょう！！ぜひご参加ください！！